



りんご箱

ケアセンター成瀬住民の会だより 第137号

2023年(令和5年)5月 発行：住民の会広報委員会 電話：729-0617 発行責任者 佐藤康夫

新年度のスタートに当たって

ケアセンター成瀬住民の会

会長 佐藤康夫



コロナ感染対策で「マスクの着用は、室内外を問わず個人の判断による」となった3月13日以降の感染者数は多少減少傾向にあります。

しかし、当会は感染対策を続け緊張の日々をおくっている高齢者施設内を拠点に活動を展開しており、ここ3年余り、予定していた諸行事が中止や延期となり、会員の皆様や地域の方々と交流が制限されてきました。

このような状況のなかで、ケアセンター成瀬を運営する社会福祉法人「創和会」の協力を得て、先定期総会が開催されました。本年度の活動計画として、これまで会員の皆様から会員相互の交流会として好評でありました「花みずきのおしゃべり会」を年4回計

画しており、第1回を6月14日(水)に開催致しますので、是非ご参加をお願い致します。

なお、その他の活動計画は、総会資料の最後のページをご参照下さい。

さて、前号のりんご箱、136号年頭挨拶の中で述べさせて頂きましたが、本年は住民の会設立30周年に当たり、役員を中心に、「30周年記念事業実行委員会」を立ち上げました。

2024年2月に、記念誌として『りんご箱140号』を発行する予定ですが、記念事業にふさわしい企画や、ご意見、ご希望がありましたら、住民の会事務局までメモ、電話等で結構です。会員の皆様の「声」をお届け頂きますよう、宜しくお願いいたします。未だにコロナの収束が見

えない中で、新型コロナウイルスの感染法上の分類が、季節性インフルエンザなどと同じ「五類」に引き下げられ、今まで通りの公的な支援が受けられるか不安も残っており、今後の感染状況によつては今年度も諸活動は何かと制限されることも多々あることと思いますが、「創和会」とその都度協議をしながら、計画した行事を進めていく予定ですので、会員の皆様のご協力とご理解をよろしくお願い致します。

花みずきのおしゃべり会 2023年度予定

2023年 6月14日(水)
9月13日(水)
12月13日(水)
2024年 3月13日(水)



参加費 100円
どなたでも参加できます！



人をつなぐ、心をつなぐ街へ！

第30回通常総会報告
島峯 紀子

例年より桜の開花が早く、また黄砂の飛来等自然界の異変に不安と戸惑いを感じます。

長く続く新型コロナウイルス感染症の恐怖もやや落ち着いた4月23日、30名の出席を得てケアセンター成瀬会議室で通常総会が開かれました。マスク着用、入室時の記名検温と感染予防は続いています。

永井まちさんのいつもの名司会で定刻に開会。

佐藤会長より日頃のご理解ご協力に対し感謝の言葉が述べられ「今年は当会の設立30周年の節目の年。実行委員会を立ち上げ準備に取り組みます。皆さま、更にご協力をお願いします」と挨拶がありました。

来賓として創和会より坂井課長が挨拶され、医師会総会のために欠席の西嶋理事

長のメッセージが代読されました。ケアセンター設立当時の苦心が伺われました。

NPOアップルサービス高綱理事長より「有償ボランティア」として始まり現在は食事サービス・すまいサービス・ホームヘルプサービスの活動を続けています」と説明があり、住民の会の協力に對してお礼が述べられました。

司会者より「議長、書記に我こそは？」とのお誘いがあるも無言のため、予めお願いしていた議長に永尾陽子さんと佐々木忠雄さん、書記に村山恵美さん、山垣淑子さんが決まり審議に入りました。以下、総会資料に従い進行。活動報告は小竹事務局長より行われ、地域の商店街の減少など現状の報告がなされました。

その後、各委員会の委員長からの報告がありました。会計田中さんより会計報告があり、続いて小林監事よ

り「適正」との報告がありました。

今年度の役員紹介は自席での起立の形で行われました。活動計画案、予算案の提案と30周年記念行事費の増額を見込んだ旨の説明があり、すべての議事は拍手をもって終了し議長団が解任されました。



2023年度 役員紹介

会 長	佐藤 康夫
副 会 長	島 峯 紀子
事務局 長	安 達 聡子
会 計	小 竹 金次
監 事	田 中 邦夫
	西 山 貴美子
	小 林 一朋
	野 中 節子
(社福)創和会	西 嶋 公子
NPOアップルサービス	高 綱 美智子
研修委員会	遠 藤 仙子
広報委員会	大 島 恭子
行事委員会	佐 藤 康夫
グループ会議	永 井 まち
ホームページ委員会	田 中 邦夫

安達副会長より、長引くコロナ禍の影響で高齢者の閉じ込めが多い現状が語られ「一日も早くケアセンター施設(特養及びデイサービスフロアは除く)の使用再開を望みます」との意見がでました。

最後に島峯副会長より「今年も役員一同、皆さまのご理解ご協力を頂きながら活動を続けて参ります。お身体に気をつけて又来年もお会いしましょう」との閉会の辞がありました。



※ 委員会の代表は各委員会の互選による

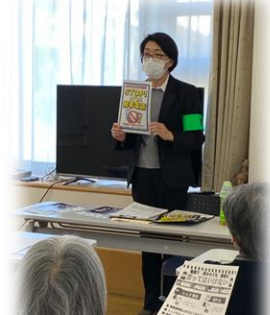
特殊詐欺の実態と対策

研修委員会の勉強会より

遠藤仙子

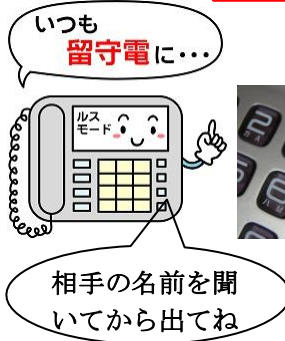


今年に入って被害は2月時点で20件1億5千万円と昨年の1億9千万円に近づく特殊詐欺。委員の一人も引っ掛かりそうになったということで町田警察署生活安全課の高岡警部補をお招きして具体的な詐欺対策のお話をお聞きしました。



大別すると詐欺には**オレオレ詐欺、預貯金詐欺、還付金詐欺**などがある。

留守番電話ボタン



いずれの場合も**固定電話**にかかってくることが多いので、

電話は在宅中でも必ず留守電にしておくことが大事
詐欺グループは証拠を残さないために留守電には吹き込まないことが多い。被害者は留守電機能が働く前に電話口にてしまいがち

とのこと。留守電で相手の名前を聞いて確認後に受話器を取っても遅くはないという事です。

在宅が一人か否か、外出の予定があるか否かなども聞かれることが多い。

相談者のいない一人での対応は詐欺グループの言いなりになることが多いそうだ。

家族、知人など必ず誰かに相談してほしい

携帯電話で話しながらATMでボタンを操作するのは、マナー違反であり、明らかに不審電話であることを周囲も気にかけておいて欲しい。犯人はあまり人目につかないATMの場所を指定してくることがある。町田市でも該当する場所がいくつかあるとのことだった。



最近では詐欺グループが独自で名簿を作成しており、**電話アンケートで個人情報**をたずねることがあるので注意してほしい。

今年5月1日から70歳以上の契約者または、70歳以上の方と同居している契約者についてナンバーディスプレイ・ナンバーリクエストの月額利用料・初期工事が無料になります。

詳細は **TEL0120-722-455**

息子などを装った犯人グループにタンス預金を狙われます。**多額の現金は自宅におかないこと。**



子ども可愛さに、「○○円ならすぐに用意できる」などと言わないように注意しよう。最近ではATMで一日におろせる金額が定めら

れており、多額の場合は用途を銀行や警察が確認することもある。

そこで犯人グループは、**タンス預金を狙ってくる。**

くれぐれも気をつけるようにとのことです。

また、スマホなどに「デジポリス」のアプリを登録すれば詐欺などの犯罪情報を把握しやすいとのことで私も早速登録しました。

テレビや新聞などでは報じられない細かなことまでお聞きすることができとても良い会でした。この地域からの詐欺の被害を食い止められるように知り合いには伝えておこうと思いま



「デジポリス」と検索し、アプリをダウンロードできます。

3月6日(水)、東京都災害救助用非常食をご希望の方々に配布しました！



昔懐かしいビスケット2種は手軽で美味しいと好評でした。

会費未納の方は下記の方法で

納入をお願い致します

- 1 住民の会事務局窓口(日曜・祝日休) 月～土 10:00～16:30
- 2 銀行振込先
きらぼし銀行玉川学園支店
口座:(普)060-0501790
名義:ケアセンター成瀬住民の会
※ゆうちょ銀行からは振り込めません
※ご一報くだされば集金に伺います

ケアセンター成瀬住民の会事務局

住所 町田市成瀬台3-24-1

電話・FAX 042-729-0617

ホームページ:

<http://ccnj.k.com>



これからの催し物

- *NPOアップルサービス定期総会
日時 5月28日(日) 午前10時～
場所 ケアセンター成瀬1階会議室
- *花みずきのおしゃべり会
日時 6月14日(水) 午後2時～
場所 ケアセンター成瀬1階会議室
- *資源回収(毎月第4火曜日)雨天決行
(新聞紙、雑誌、本、古着、アルミ缶、段ボール等)ご協力ください。
5/23、6/27、7/25、
8/22



ケアセンター内の斜面の庭を彩る春の花々



施設の前庭にも職員の方々も丹精込めて育てた花々が咲いています

編集後記

通りすがりの焔で複数の白い蝶が舞っていた。見慣れた風景なのに思わず立ち止まって見入ってしまう。いつもの春なのか、いつもと違う春なのか？

この数年間あまりにも多くのことが起こった。何がどの順番で通り過ぎていったのかすぐには思い出せないほどだ。

「失われた三年間」とも言われる混乱の日々がようやく終わりかけ、世の中が再び動き始めた。

街も電車も人でいっぱいだし、新聞を広げればツア一の全面広告が目飛び込んでくる。

旅行の計画もマスクの着脱も各自の自由な判断で：と言われると開放感に思わず頬が緩む。

まだまだ安心はできないが、あの蝶たちの乱舞がコロナ禍を乗り越えた私達への祝福であってほしいと切に願う。
(柿内)

